

海上保安制度創設70周年を祝う

第8管区海上保安本部が式典開催 厳しさ増す情勢へ 任務の遂行に高まる期待

去る6月24日、第8管区海上保安本部の「海上保安制度創設70周年記念式典」が開催されました。

式典は、午前10時から北吸の舞鶴市政記念館で始まり、国・府・市などの関係者ら約80人が出席。舞鶴



6月24日に開催された“70周年式典”
(写真は第8管区海上保安本部提供)

商工会議所からは安達副会頭が参加しました。

まず、伊藤裕康本部長が「近年、周辺海域の状況が厳しさを増す中、地域の安全及び治安の確保に尽くしている。70周年を節目として今後とも全力で課せられた任務を果たし、信頼に応えていきたい」とあいさつ。その後、海上保安思想の普及に貢献されてきた6人への感謝状贈呈や、第8管区海上保安本部70年の歩みとして「不審船の領海侵犯事件、ナホトカ号重油流出事故」等、約15分間のスライドが上映されました。

会場では70周年を祝う言葉とともに、今後の日本海の安全と任務の遂行に期待する声が多く聞かれました。

海上保安庁は、海上自衛隊とともに、舞鶴市の基盤を支え明日へのまちづくりにも欠かせない国の機関です。舞鶴商工会議所として、今後とも一層の連携強化に努めていくことにしています。

海の恵みに感謝

7月16日「海の日」のつどい」が開催

7月16日に「海の日」のつどい」が北吸の舞鶴市政記念館で開催されました。

国民の祝日「海の日」に“海の恵みに感謝するとともに、明治以来の海洋国家日本の繁栄を願う”ことを目的として「京都『海の日』実行委員会」が毎年実施されています。

午後1時30分から開始された式典には、約120人が出席。はじめに、松本直樹実行委員長から「舞鶴港を基盤に地域の産業や観光の振興などによって、本市の発展へ向けてともに取り組もう」とのあいさつがありました。その後、海事関係の功労者表彰が行われ、21人に国土交通省や海上保安庁などから感謝状が手渡されました。

式典終了後、屋外で舞鶴海洋少年団員の小学生と中学生の22人が元気一杯の手旗信号を披露。「海の恵みに感謝して未来に羽ばたく我ら海の子」と“海の日”を祝福。出席した皆さんからは大きな拍手が起っていました。



舞鶴海洋少年団が手旗信号を披露（7月16日）